

— トラフグ、マフグ、カラスの区別 —

棘がある



尻びれは白

トラフグ

棘がある



尻びれは黒

カラス

棘がない



白点がない

マフグ(成魚型)

棘がない



白点がある

マフグ(幼魚型)

— 交雑種の取扱いについて —

棘がある

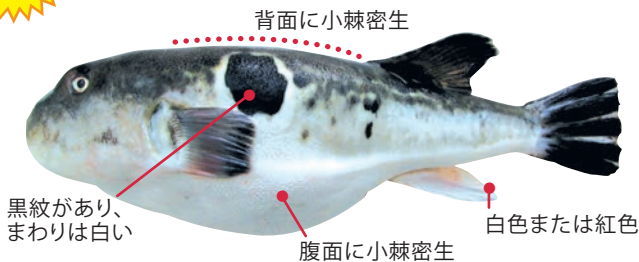
体側中央に
黄色帯

交雑種(トラフグ×マフグ) 疑い

札幌市中央卸売市場には年に数回、交雑種と疑われるフグが入荷することがある。外見から両親種を特定することが難しいことから、種類不明のフグとして販売しないよう指導を行っている。

札幌
入荷

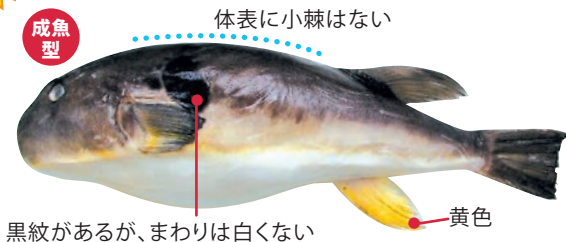
トラフグ



体 長 70 c m (大型種) 可食部位 筋肉・皮・精巣

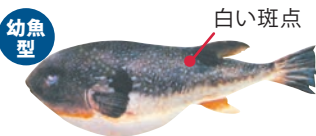
札幌
入荷

マフグ



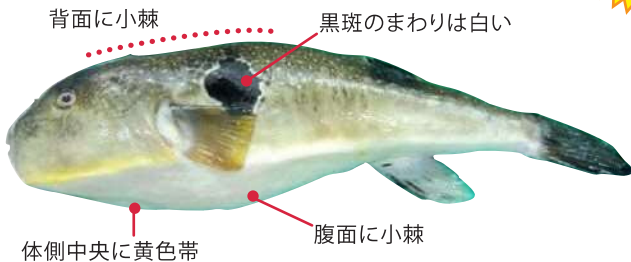
体 長 50 c m (中型種)

可食部位 筋肉・精巣



交雑種（トラフグ×マフグ）疑い

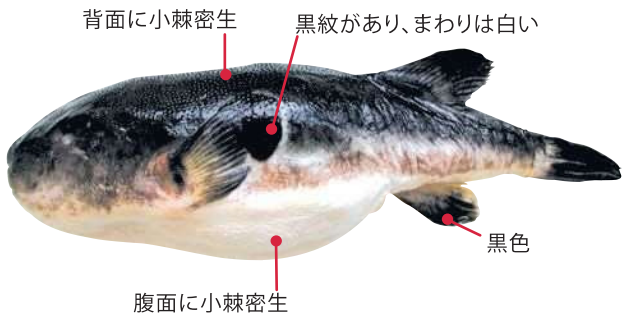
札幌
入荷



取扱い：種類不明のフグとして、販売しないことを指導

カラス

札幌
入荷

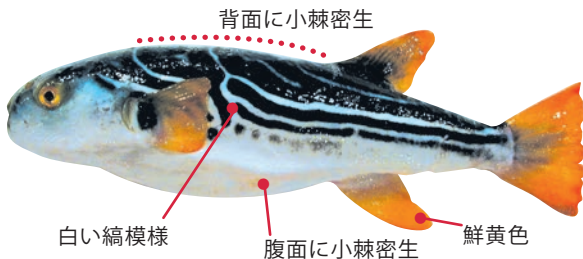


体 長 50 c m (中型種)

可食部位 筋肉・皮・精巢

札幌
入荷

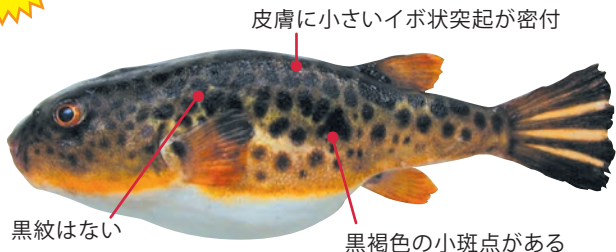
シマフグ



体長	60 cm (大型種)	可食部位	筋肉・皮・精巣
----	-------------	------	---------

札幌
入荷

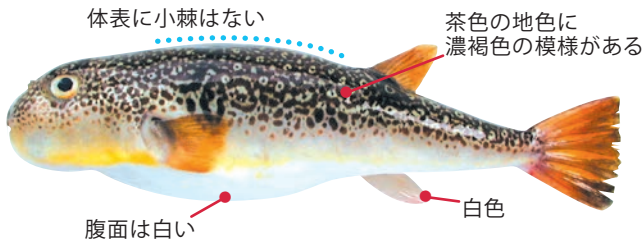
ヒガンフグ



体長	40 cm (中型種)	可食部位	筋肉*
----	-------------	------	-----

*ただし、三陸沿岸(岩手県越喜来湾及び釜石湾並びに宮城県雄勝湾)で漁獲されたものを除く

ショウサイフグ

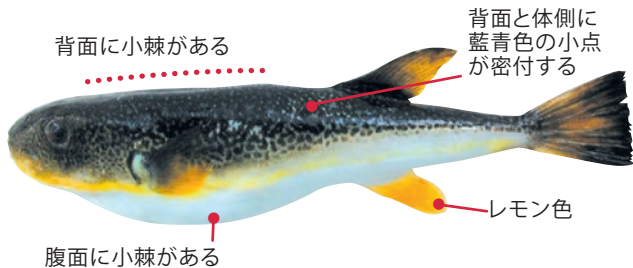


体 長 35 c m (中型種) 可食部位 筋肉・精巣

* 海水温の上昇等の影響により、ゴマフグ(下)等との交雑種の増加が確認されているので注意が必要。

ゴマフグ

札幌
入荷



体 長 40 c m (中型種) 可食部位 筋肉・精巣

札幌
入荷

ナシフグ

体表に小棘はない



黒紋があり、まわりは
白く菊花状に縁取られる

下方は白色

体 長 30 c m (中型種) 可食部位 筋肉*1・精巣*2

*1 有明海、橘湾、香川県および岡山県の瀬戸内海域で漁獲されたものに限る

*2 有明海、橘湾で漁獲され、長崎県で定める要領に基づき処理されたものに限る

クサフグ

背面に小棘密生

暗緑色地に小白斑

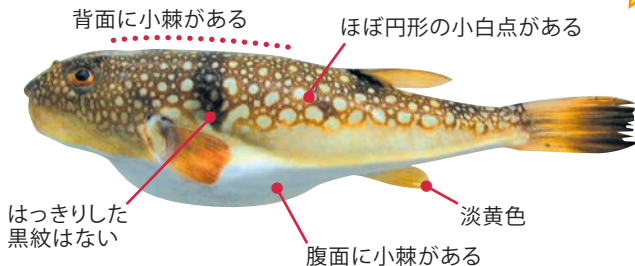


腹面に小棘密生

体 長 15 c m (小型種) 可食部位 筋肉

札幌
入荷

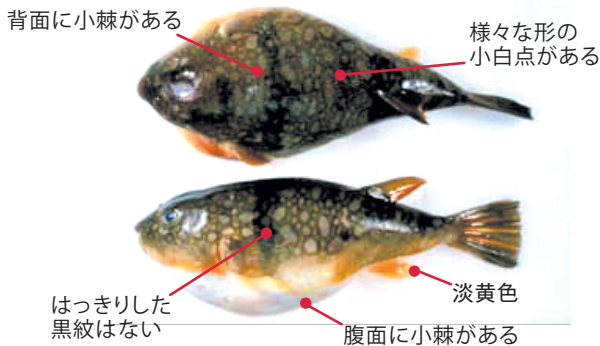
コモンフグ



体長 25 c m (小型種) **可食部位** 筋肉*

*三陸沿岸(岩手県越喜来湾、釜石湾および宮城県雄勝湾)で漁獲されたものを除く

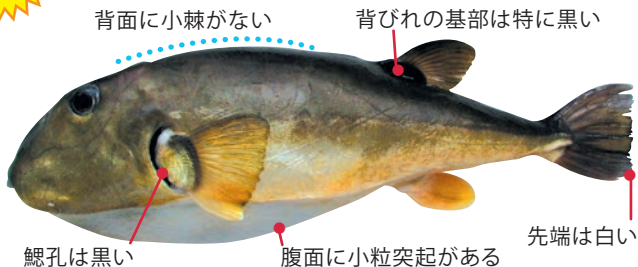
コモンダマシ



体長 30 c m (小型種) **食用不可**

札幌
入荷

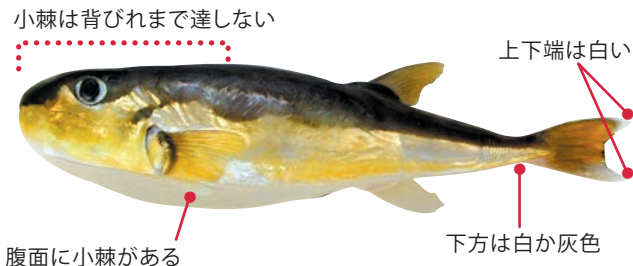
カナフグ



体 長 100 c m (大型種) 可食部位 筋肉・皮・精巣

札幌
入荷

シロサバフグ



体 長 35 c m (中型種) 可食部位 筋肉・皮・精巣

ドクサバフグ

※他のサバフグ類と酷似

小棘は背びれまで達している

背びれ基部は特に黒い



体長 50 cm (中型種) **食用不可**

— サバフグ類の区別 —

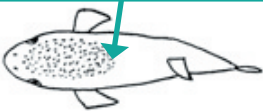


▲シロサバフグ

背面の小棘が背びれに達していない。

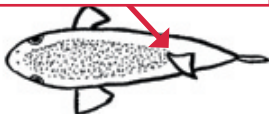


▲クロサバフグ



▲ドクサバフグ (食用不可)

背面の小棘が背びれの付け根までである。



札幌
入荷

ホシフグ



全身に白色点と小棘がある

体 長 40 c m (中型種) **食用不可**

主なフグの特徴

種類	背面	腹面	黒紋	尻びれ	尾びれ	体長
トラフグ	黒い斑点が重なり合って黒褐色になる。小棘(とげ)がある。	小棘(とげ)がある。	胸鰭の後方には白く縁取られた大きな黒い斑点がある。	白色か紅色		80cm以上 (大型種)
マフグ (成魚)	小さな黒い斑点が数多く密に分布し、黒褐色にみえる。小棘はなく、なめらか。	腹面は白い。小棘はなく、なめらか。	胸鰭のすぐ後ろに大きな黒い斑紋があるが、白い縁取りはない。	黄色	一様に暗褐色	50cm (中型種)
マフグ (幼魚)	幼魚と成魚で背面の様子が異なり白い斑点がある。コモンフグに似る。小棘はなく、なめらか。	小棘はなく、なめらか。	胸鰭のすぐ後ろに大きな黒い斑紋があるが、白い縁取りはない。	黄色	一様に暗褐色	-
カラス	背面と側面の紋様はトラフグとよく似て、黒い斑点が重なり合い黒褐色になる。小棘がある。	腹面は白い。小棘がある。	胸鰭の後方の黒い斑紋はトラフグに比べ、全体的に紋様が不鮮明である。	黒色 ※トラフグは白色		50cm (中型種)
シマフグ	背面と側面は青黒色の地色に背面から体側後方に向かって白い縞が走る。小棘が密生している。	小棘が密生している。		鮮やかな黄色	鮮やかな黄色	60cm以上 (大型種)
ゴマフグ	背面と体側面に藍青色の小点がごま粒のように密在する。小棘がある。	小棘がある。		黄色 ※胸鰭も黄色	黒色 ※背鰭も黒色	40cm (中型種)
ヒガンフグ	背面と側面は赤味をおびた褐色で、黒褐色の小斑点が多く散在。小棘はない。皮にいぼ状の小さな突起が密布する。	腹面は白い。小棘はない。	黒斑はない。			35cm (中型種)
クサフグ	背面は深緑色で、側面から背面い白い小さな斑点が散在する。小棘がある。	腹面は白い。小棘がある。	胸鰭のすぐ後ろにやや大きな黒い斑紋があるが、白い縁取りはない。			15cm以下 (小型種)
ショウサイフグ	茶色の地色に濃褐色の模様がある。小棘はない。	腹面は白い。小棘はない。	黒斑はない。	白色		35cm (中型種)
ナシフグ	背面の斑紋は茶褐色に縁取られた白色で、互いが接するよう密に分布する。小棘はなく平滑である。	小棘はなく平滑である。	胸鰭後方上部に黒紋があり、その周辺が白く花のように形どられている。	白色 ※背鰭と胸鰭は黄色	黄色で下縁は白い	25cm (小型種)
コモンフグ	背面は褐色で、円形をした小さな斑点(小紋)が不規則に散在する。小棘がある。	腹面は白い。小棘がある。	はっきりした黒紋はない。	淡黄色		25cm以下 (小型種)
サンサイフグ	幼魚と成魚で模様が大きく異なる。小棘がある。	小棘がある。	胸鰭後方上部に不定形の黒紋がある。	黒色か暗黄色		40cm (中型種)

種類	背面	腹面	黒紋	尻びれ	尾びれ	体長
アカメフグ	背面と側面は桃色または赤褐色の地に小斑点が散在する。小棘(とげ)はなく、平滑である。	小棘(とげ)はなく、平滑である。	黒斑はない。	赤褐色	赤褐色	25cm (小型種)
メフグ	背面は茶褐色。小棘がある。	小棘がある。	胸鰭と背鰭の基部に黒い班紋があり、白い縁取りがあるが不明瞭な場合あり。	黄色		45cm (中型種)
カナフグ	小棘はない。	腹面に小粒状突起あり。		※背鰭の基部が黒く、鰓孔も黒い。		1mに達する 大型種
シロサバフグ	小棘があり、背鰭まで達しない。(この点がドクサバフグと異なる)	小棘がある。			下方は白色か灰色	35cm程度 (中型種)
クロサバフグ	小棘があり、背鰭まで達しない。(この点がドクサバフグと異なる)	小棘がある。			中央部は突出する。(この点がシロサバフグと異なる)	40cm程度 (中型種)
ヨリトフグ	体は円滑で小棘(とげ)はない。	体は円滑で小棘(とげ)はない。				40cm (中型種)
ハコフグ	体甲に突起はなく、体の横断面はほぼ四角形。					40cm (中型種)
ハリセンボン	体の全体に強くて可動の長い棘が密布する。	体の全体に強くて可動の長い棘が密布する。				30cm以下 (小型種)

食用不可のフグ

種類	背面	腹面	黒紋	特徴
コモンダマシ	小棘があり、その基部は白く顕著な微小白点になっている。	小棘がある。	はっきりした黒紋はない。	コモンフグに似るが、体側小白点の形が異なることで区別できる。尾鰭は淡黄色。27cm(小型種)
ドクサバフグ	背中の小棘は背鰭まで達し、背鰭基部は特に黒い。	小棘がある。		尾鰭中央部は深く切れ込んだものが多い。50cm以上に達する中型種だが、40cm以下のものが多い。
センニンフグ	背面に小黑点があり、体側に銀白色のバンドがある。			鰓孔は黒い。1mに達する大型種
ムシフグ	背面、体側の虫がはった跡のような模様は個体によって異なる。小棘がある。	小棘がある。		シマフグとナシフグの天然交雑種フグがムシフグと混同されている。20cm(小型種)
サザナミフグ	体側に白い小円紋あり。小棘がある。	波状帯があるが、成魚は消失し、いくらか白くなる。小棘がある。		50cm(中型種)
ホシフグ	小白点と小棘がある。	小白点と小棘がある。		40cm(中型種)
クマサカフグ	小棘はない。	小棘がまばらにある。		胸鰭の下方1/3は白い。尾鰭の下葉は上葉より長い。50cm(中型種)

自然毒のリスクプロファイル(厚生労働省HP)、
日本近海産フグ類の鑑別と毒性(厚生省生活衛生局肉衛生課編)による。